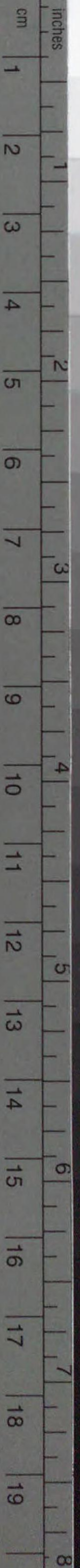


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



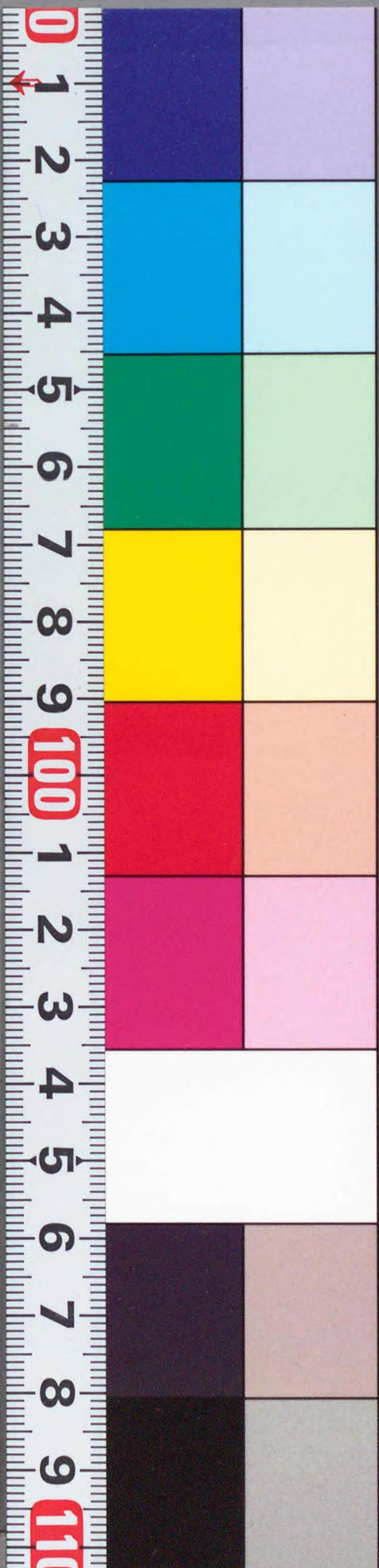
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



14.7
238

CZ
435
03

製鉄業未時大廟開修法規

CZ-435-03
1200901599316



製鐵業獎勵關係法規

農商務省鑛山局

C2
435
03

147-238



製鐵業獎勵關係法規

目次

一	製鐵業獎勵法	一
二	製鐵業獎勵法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件	七
三	製鐵業獎勵法施行令	九
四	製鐵業獎勵法施行規則(農商務省令)	九
五	製鐵業獎勵法施行規則(朝鮮總督府令)	二九
六	製鐵設備計畫認可申請書記載例(通牒)	三三
七	製鐵事業計畫書記載方注意事項(通牒)	四三
八	製鐵能力增加計畫屆記載方注意事項(通牒)	四九
九	製鐵事業報告書記載例(通牒)	五三
一〇	獎勵金ノ交付ヲ受クルニ要スル手續説明書(通牒)	七三
一一	海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則(海軍省令)	八七
一二	船舶建造及修繕用物品承認規則(遞信省令)	九一
一三	船舶建造及修繕用物品承認規則ニ依ル取扱方ニ關スル件(通牒)	九九

大正
11. 12. 6
内交

零 語 解

參照法令ニ法トアルハ(製鐵業獎勵法)、令トアルハ(同法施行令)、則トアルハ(同法施行規則)、海トアルハ(海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則)、船トアルハ(船舶建造及修繕用物品承認規則)トス

製鐵業獎勵關係法規

一 製鐵業獎勵法

(大正六年法律第二十七號 改正大正十年法律第七九號)

第一條

一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ト製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス
前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ收用又ハ使用シ得ヘキ製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

參照「令一」

第二條

一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ場所ニ於ケル事業ニ付營業稅及業務ヨリ生スル所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス
前項ノ規定ニ依リ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クヘキ製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

參照「令一、三、四」則二、六」

製鐵業獎勵法

營業稅ノ免除
所得稅ノ免除
製鐵事業
一、佛噸以上
〇、佛噸以上
ノ、佛噸以上
設備力有
ルモノ有ス

土地收用法
第二條
用シ得ヘキ
製鐵事業

製鐵業獎勵法

二、五二五
佛噸以上
ノ能力ヲ増
加スル設備
ヲ爲シタル
モノ

三、二五〇
佛噸以上
ノ低燐銑鐵
及電氣製鐵
事業

四、計畫認
可ヲ受ケタ
ル場合

營業稅、所

第三條

一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ増
加スル設備ヲ爲シタルトキハ能力増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ増加シタ
ル能力ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

參照「令一、三、四」則二、六

第四條

前二條ノ規定ニ於テ五千二百五十佛噸トアルハ低燐銑鐵製造事業及電氣
製鐵事業ニ付テハ二千五百佛噸トス (大正十年法律第
七九號ニテ改正)
前項低燐銑鐵ノ標準成分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

參照「令二」則三

第五條

農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル計畫ニ基キ命令ノ定ムル期間内ニ製鐵能力
ノ設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ヲ完成スルトキハ其ノ完成ノ年ヲ以テ第二條ノ
開業ノ年又ハ第三條ノ能力増加ノ年ト看做ス

前項ノ規定ニ依ル設備完成前其ノ設備ニ依リ事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ能力
ニ付營業稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ期間内ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ
限ニ在ラス

參照「令三」則四、五

第六條

製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實ア
ル者ハ前事業者カ本法ニ依ル營業稅及所得稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間
ヲ繼承ス

得稅免除期
間ノ繼承

府縣市町村
稅ノ賦課禁
止

造船用鋼材
ニ對スル獎
勵金ノ交付

右獎勵金ノ
償還

第七條

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業稅及所
得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資
本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課
稅スルコトヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ
主務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條ノ二

帝國内ニ於テ製造シタル鋼材カ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタ
ルトキハ政府ハ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ獎勵金ヲ交付ス
ルコトヲ得 (大正十年法律第七
九號ニテ本條追加)

參照「令五ノ二、五ノ三、五ノ四、五ノ五、六」則五ノ二、五ノ三、五ノ四、五ノ五

第七條ノ三

詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ
金額ヲ償還セシム

前項ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ
先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス (大正十年法律第七
九號ニテ本條追加)

製鐵業獎勵法

附 則

施行期日

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正六年勅令第一二五號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

施行ノ際現ニ製鐵事業ヲ營ム者ノ免稅

第九條 本法施行ノ際現ニ製鐵事業ヲ營ム者本法施行後三年內ニ一ノ場所ニ於テ第二條ノ能力ヲ有スル設備ヲ爲スニ至リタル場合ニ於テ開業ノ年ノ翌年ヨリ十年ヲ經過セサルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ殘期間第二條ノ規定ヲ準用ス

施行ノ前ヨリ第二條ノ能力ヲ有スル者ノ免稅

第十條 本法施行前ヨリ一ノ場所ニ於テ第二條ノ能力ヲ有スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者其ノ開業ノ年ノ翌年又ハ第三條ノ能力ヲ增加スル設備ヲ爲シタル年ノ翌年ヨリ本法施行ノ日迄二十年ヲ經過セサルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ殘期間第二條又ハ第三條ノ規定ヲ準用ス

低鐵銑及電氣製鐵輸入稅免除

第十一條 第四條及第五條ノ規定ハ前二條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス
第十二條 第一條ノ能力ヲ有スル製鐵事業ノ設備又ハ一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力若ハ製鋼能力ヲ增加スル設備ヲ爲ス爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ十年間勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス本法施行ノ際現ニ製鐵事業ヲ營ム者本法施行後三年內ニ一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スルニ至ル爲必要ナル設備ヲ爲ス場合亦同シ

參照 「令」二、一三、一四「則」二二

大正十年法律第七九號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十年勅令第三百三十二號ヲ以テ同年七月二十日ヨリ施行)

本法施行ノ際電氣製鐵事業ヲ營ム者ニ付テハ第九條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス

二 製鐵業獎勵法ノ一部ヲ朝鮮ニ
施行スルノ件

(大正十一年勅
令第二六號)

製鐵業獎勵法第七條ノ二及第七條ノ三ノ規定ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十一年二月二
十一日ヨリ施行)

製鐵業獎勵法ニ依ル製鐵業ノ範圍

低磷銑鐵ノ標準成分、低磷銑鐵製造事業計畫ノ認可及其取消

認可計畫ニ基ク設備完成期間

三 製鐵業獎勵法施行令

(大正六年勅令第一二六號
改正大正十年勅令第三三三號
大正十一年勅令第二七號)

第一條 製鐵業獎勵法ニ依リ他人ノ土地ヲ收用又ハ使用シ得ヘキ製鐵事業ハ銑鐵、鋼鐵、壓延鋼材(軌條及繼目飯ヲ含ム)、鍛鋼製品若ハ鑄鋼製品ノ素材又ハ農商務大臣ノ指定シタル副生物ノ製造ニ關スル事業トス營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クヘキ製鐵事業亦同シ

第二條 低磷銑鐵ノ標準成分ハ磷ノ含有量萬分ノ四以下トス
低磷銑鐵製造事業ニ付營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ開業又ハ能力增加前其ノ事業ノ計畫ニ付農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依ル認可ハ農商務大臣低磷銑鐵ノ製造不確實ト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第三條 製鐵業獎勵法第五條第一項ノ期間ハ製鐵能力一年三萬五千佛噸未満ノ場合ニ在リテハ二年、十萬佛噸未満ノ場合ニ在リテハ三年、十萬佛噸以上ノ場合ニ在リテハ五年内ニ於テ農商務大臣之ヲ定ム

前項ノ期間ハ農商務大臣災害其ノ他已ムヲ得サル事由アリト認ムルトキハ一年

製鐵業獎勵法施行令

所得稅免除ノ申請

ヲ限り之ヲ延長スルコトヲ得

第四條 所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ所得ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受クヘキ事業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

營業稅免除ノ申請

第五條 營業稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ營業稅法第十三條ノ規定ニ依リ營業名及課稅標準ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受クヘキ營業ト其ノ他ノ營業トヲ兼營スルトキハ之ヲ區別シタル内譯書ヲ添附スヘシ

獎勵金ノ交付ヲ受ケヘキ鋼材

第五條ノ二 製鐵業獎勵法第七條ノ二ノ獎勵金ハ左ニ掲クル鋼材ニシテ本令施行後ノ製造ニ係リ其ノ製造者又ハ其ノ製造者ヨリ之ヲ讓受ケタル者カ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用シタルモノニ付之ヲ交付ス但シ國ノ工場ニ於テ製造セラレタル鋼材ニ付テハ此限ニ在ラス

- 一 鋼塊及鋼片（鍛造用ノモノ）
- 二 條及竿（テーパー形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及タービンプレートディングヲ含ム）

- 三板
- 四 筒及管（鑄タルモノヲ除ク）

前項第一號ニ掲クル鋼材ヲ其ノ製造者カ加工シテ讓渡シタルトキハ其ノ素材タル鋼材ニ付獎勵金ヲ交付ス （大正十年勅令第三三三號ニテ本條追加）

船舶建造又ハ修繕用鋼材豫定届

第五條ノ三 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ者カ鋼材ヲ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セムトスル場合ニ在リテハ其ノ使用ノ前、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ前ニ其ノ鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場ヲ記載シタル届書ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ届書ニハ其ノ鋼材カ海軍艦船以外ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セララルル場合ニ於テハ造船者又ハ船舶修繕者カ農商務大臣ノ定ムル事項ニ付管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ届書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付遲滞ナク農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付造船者又ハ船舶修繕者カ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ遲滞ナク農商務大臣ニ届出ツヘシ （大正十年勅令第三三三號ニテ本條追加）

獎勵金交付申請

第五條ノ四 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ規定ニ依リテ届出ヲ爲シタル鋼材カ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ海軍官憲ノ鋼材使用説明書ヲ添附シ其ノ他ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ鋼材使用説明書及造船者又ハ船舶修繕者カ受ケタル管海官廳ノ竣工承認書寫ヲ添附シ獎勵金交付申請書ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ
(大正十年勅令第三三三號ニテ本條追加)

參照 「則五ノ四」船「海」獎勵金交付手續

獎勵金ノ金額

第五條ノ五 獎勵金ノ金額ハ鋼塊及鋼片ニ付テハ其ノ價額ノ一割二分、其ノ他ノ鋼材ニ付テハ其ノ價額ノ一割五分トス
前項ノ價額ハ第五條ノ三第一項ノ使用又ハ引渡ノ時ニ於ケル其ノ鋼材ト同種ノ鋼材ノ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ヲ標準トシテ農商務大臣之ヲ定ム
(大正十年勅令第三三三號ニテ本條追加)

農商務大臣ノ書類等ノ徵收及設備帳簿等ノ検査

第六條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ヲシテ製鐵事業ニ關スル書類又ハ製鐵原料若ハ製品ノ試料ヲ提出セシメ當該官吏ヲシテ製鐵事業ニ關スル設備、帳簿其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得
(大正十年勅令第三三三號ニテ改正)

參照 「則五ノ五」

收稅官吏ノ設備帳簿等ノ検査ノ朝鮮總督ノ主管事項

第七條 收稅官吏必要ト認ムルトキハ前條ノ検査ヲ爲スコトヲ得
第七條ノ二 第五條ノ三乃至第六條中農商務大臣トアルハ製鐵業獎勵法ヲ朝鮮ニ施行スル範圍ニ於テハ朝鮮總督トス
(大正十一年勅令第二七號ニテ本條追加)

附 則

第八條 本令ハ製鐵業獎勵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 本令施行ノ年ニ於テ免除スヘキ營業稅及第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其ノ年ノ決定稅額ニ依リ月割ヲ以テ之ヲ定ム
本令施行ノ日ノ屬スル事業年度ニ付免除スヘキ第一種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其ノ事業年度ノ決定稅額ニ依リ月割ヲ以テ之ヲ定ム

施行ノ年ニ於ケル免稅申請

第十條 本令施行ノ年ニ於ケル第四條又ハ第五條ノ申請ニシテ其ノ期限ノ經過シタルモノハ本令施行後一月内ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條 第三條ノ規定ハ製鐵業獎勵法第十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ器具、機械其ノ他ノ材料ノ種類ハ第一條ニ掲クル製鐵事業ノ爲必要ナル物ニシテ農商務大臣ノ指定シタルモノニ限ル

輸入稅ノ免除ヲ受クヘキ物ヲ輸入セムトスル者ハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受ク

製鐵業獎勵法施行令

ヘシ

輸入税ノ免
除ヲ受ケル
手續

輸入税ノ追
徴

税關官吏ノ
檢査

第十三條 輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告ヲ爲ス場合ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依ル認可書ヲ添附スヘシ

前項ノ輸入申告ハ製鐵事業者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

第十四條 輸入税ノ免除ヲ受ケタル物ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入税ヲ追徴ス但シ其ノ物ヲ製鐵業獎勵法ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ使用セムトスル場合ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ旨税關ニ申告シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 税關官吏必要ト認ムルトキハ第六條ノ檢査ヲ爲スコトヲ得
大正十年勅令第三三三號附則

本令ハ大正十年法律第七十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (同上法律ハ同年七月二十日ヨリ施行)

本令施行ノ際電氣製鐵事業ヲ營ム者ニ付テハ第九條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス
大正十一年勅令第二七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (獎勵法施行令第七條ノ二追加
大正十一年二月二十一日公布)
本令施行前ノ製造ニ係ル鋼材ニ關スル第五條ノ三第一項ノ屆書ハ製鐵業獎勵法ヲ朝鮮ニ施行スル範圍ニ於テハ其ノ鋼材ノ使用又ハ引渡ノ後ト雖本令施行ノ日ヨリ六十日間仍之ヲ提出スルコトヲ得

四 製鐵業獎勵法施行規則

大正六年農商務省令第一八號
改正大正七年農商務省令第五號
大正九年農商務省令第一三號
大正十年農商務省令第二三號

第一條 製鐵業獎勵法施行令第一條ノ副生物ノ種類左ノ如シ

副生物ノ種類

- 鑛 滓 綿
- 鑛 滓 煉 瓦
- 鑛 滓 兒
- 無 水 爹 兒
- 輕 油
- 中 油
- 重 油
- ピ ッ チ
- 安 母 尼 亞
- 安 母 尼 亞 水
- 硫 酸 安 母 尼 亞
- 粗 製 ナ フ サ リ ン

製鐵業獎勵法施行規則

アンスラシン
ベンゾール
キシロール
トルオール
ソルベントナフサ

事業計畫屆

第二條 營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ開業又ハ能力增加前其ノ事業

ノ計畫ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル事業計畫書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ但シ第四條ノ認可申請書ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

參照「事業計畫書記載方注意事項」
能力增加計畫書記載方注意事項」

- 一 製鐵所ノ位置及名稱
- 二 資本額
- 三 製鐵所設計ノ概要及設計圖
- 四 工事着手ノ時期
- 五 開業又ハ能力增加ノ時期
- 六 生産品名及生産ノ順序方法

- 七 一年間ノ生産品ノ種類別生産豫定額
- 八 原料取得ノ計畫

製鐵事業中營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クヘキモノト其ノ他ノモノトアル場合ニ於テハ其ノ區別ヲ明ニスヘシ

製鐵事業者法人ナルトキハ其ノ定款ヲ添附スヘシ

第三條 低燐銑鐵製造事業ノ計畫ニ付農商務大臣ノ認可ヲ申請セムトスル者ハ其

低燐銑鐵製
造事業計畫
認可申請

ノ申請書ニ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 前條第二項第一號、第二號及第四號乃至第七號ニ掲クル事項
 - 二 製鐵所設計ノ明細及設計圖
 - 三 鐵鑛、燃料及媒溶劑ノ生産地、成分竝其ノ取得豫定總量及期間
 - 四 電氣製鍊ノ場合ニ在リテハ電力供給ニ關スル事項
- 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ原料トシテ使用スヘキ鐵鑛、燃料及媒溶劑ノ試料ヲ提出スヘシ

前條第二項但書、第三項及第四項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 製鐵業獎勵法第五條ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載

スヘシ

參照「認可申請書記載例」

製鐵業獎勵法施行規則

製鐵能力、
加設備認可
申請書

製鐵業獎勵法施行規則

工事成績報告書、工事施行仕様書ノ提出

鋼材引渡届

- 一 製鐵所ノ位置及名稱
- 二 資本額

三 製鐵所設計及年別工事計畫ノ概要並設計圖

四 年別工事費豫算

五 設備完成ニ至ル迄ノ毎年ノ生産豫定額

六 原料取得ノ計畫

前項ノ申請書ニハ工事着手ノ初期ニ於ケル工事施行仕様書及製鐵事業者法人ナルトキハ其ノ定款ヲ添附スヘシ

第五條 製鐵業獎勵法第五條ノ認可ヲ受ケタル者ハ設備完成ニ至ル迄其ノ前年ノ工事成績報告書ヲ毎年一月三十一日迄ニ、工事施行仕様書ヲ其ノ作製ノ都度農商務大臣ニ提出スヘシ

第五條ノ二 製鐵業獎勵法施行令第五條ノ三第一項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ届書ニ記載シタル鋼材ヲ引渡シタルトキハ其ノ都度引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造時期、製造工場及引渡時期ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ
(大正十年農商務省令第二三號ニテ本條追加)

參照「獎勵金交付手續」

管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項

第五條ノ三 製鐵業獎勵法施行令第五條ノ三第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ
(大正十年農商務省令第二三號ニテ本條追加)

甲 船舶建造ノ場合

一 造船者ノ氏名又ハ名稱及住所

二 工場ノ名稱及位置

三 船舶ノ製造番號

四 船舶ノ建造ニ使用スヘキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量

五 起工及竣工ノ期日

乙 船舶修繕ノ場合

一 船舶修繕者ノ氏名又ハ名稱及住所

二 工場ノ名稱及位置

三 一定期間ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量

參照「獎勵金交付手續」

製鐵業獎勵法施行規則

鋼材使用說明書ノ記載事項

製鐵業獎勵法施行規則

第五條ノ四

製鐵業獎勵法施行令第五條ノ四ノ鋼材使用說明書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

(大正十年農商務省令第二三號ニテ本條追加)

- 一 鋼材ノ使用者及使用工場
- 二 建造ノ場合ニ在リテハ船舶ノ製造番號、修繕ノ場合ニ在リテハ船舶ノ名稱
- 三 使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場
- 四 鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

參照「獎勵金交付手續」

第五條ノ五

獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ原料及燃料ノ購入消費、製品ノ生産販賣、其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスヘキ書類帳簿ヲ鋼材製造工場ニ備ヘ置クヘシ

(大正十年農商務省令第二三號ニテ本條追加)

第六條

營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者若ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製鐵事業ニ付毎年一月三十一日迄ニ其ノ前年ノ事業報告書ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

(大正十年農商務省令第二三號ニテ改正)

前項ノ事業報告書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ 參照「事業報告書記載例」

事業報告書ノ提出

書類帳簿ノ備附義務

一 事業概況

- (一) 資本總額
- (二) 從業者數
- (三) 職工勞働者數
- (四) 敷地面積
- (五) 工場建物ノ棟數及建坪
- (六) 原動機ノ種類、數及實馬力
- (七) 機關車及貨車數並軌道哩數
- (八) 汽船數及其ノ噸數
- (九) 生産品販賣高
- (十) 收支決算

二 製銑爐、製鋼爐、骸炭爐、壓延機

- (一) 種類及數
- (二) 能力
- (三) 操業日數
- (四) 生産額

製鐵業獎勵法施行規則

- (五) 次年ノ生産豫定額
 - (六) 能力増加其ノ他變更ニ關スル計畫
 - 三 鍛鋼用主要汽槌及水壓機ノ種類、數、能力
 - 四 製銑工場、製鋼工場、壓延工場其ノ他ノ工場
 - (一) 固定資本額
 - (二) 建物棟數及建坪
 - (三) 建物賃貸價格
 - (四) 職工勞働者數
 - 五 銑鐵、鋼鐵其ノ他ノ生産品
 - (一) 數 量
 - (二) 價 額
 - 六 鐵鑛、石炭其ノ他ノ原料
 - (一) 生 産 地
 - (二) 數 量
- 製鐵事業中營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クハキモノト其ノ他ノモノトアル場合ニ於テハ前項第二號乃至第五號ニ掲クル事項ニ付テハ其ノ區別ヲ明ニスヘシ

附 則

第七條 本則ハ製鐵業獎勵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

施行期日
施行ノ際現
ニ製鐵事業
ヲ營メル者
ノ手續

第八條 第二條ノ規定ハ製鐵業獎勵法第九條ニ依リ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 製鐵業獎勵法第十條ニ依リ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ本則施行後一月内ニ其ノ事業計畫ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ其ノ届出テタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
前項ノ規定ニ依ル事業計畫書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
一 第二條第二項第一號乃至第三號及第五號乃至第八號ニ掲クル事項
二 開業又ハ能力増加後事業ノ繼續又ハ繼續ト認ムヘキ事實アリタルトキハ其ノ事實
三 最近三年間ノ生産品ノ種類及其ノ生産額

第十條 第三條ノ規定ハ製鐵業獎勵法第十條ノ場合ニ於ケル低燐銑鐵製造事業計畫ノ認可ノ申請ニ之ヲ準用ス但本則施行後一月内ニ其ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 製鐵業獎勵法第五條及同法第十一條ノ規定ニ基キ本則施行前ニ完成シ

又ハ工事ニ著手シタル製鐵能力ノ設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ノ計畫ニ付認可ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ申請書ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シ本則施行後一月内ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 設備完成ニ至ル迄ノ年別工事計畫ノ概要及其ノ施行ノ成績竝設計圖
- 二 製鐵能力設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ノ完成前其ノ設備ノ一部ニ依リ製鐵事業ヲ營ミタル場合ニ於テハ其ノ能力及其ノ設備使用開始ノ時期
- 三 製鐵能力ノ設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ノ工事カ一計畫ニ屬スルモノナルコトヲ證明スルニ足ル事項

第十二條

輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ物ノ種類左ノ如シ

大正七年農商務省令第五號ニテ改正
大正九年農商務省令第一三號ニテ改正

原料又ハ製品ノ起重機又ハ連續的運搬裝置

碎 鑛 機

鐵鑛選別機

磁 選 機

團鑛機及其ノ附屬裝置

鎔鑛爐、骸炭爐、混銑爐、加熱式混銑爐、平爐、轉爐、傾注式製鋼爐、熱電

氣爐、瓦新發生爐、加熱爐、均熱爐又ハ瓦斯除塵機ノ構成金物及其ノ附屬機械

鎔鑛爐用捲揚機又ハ裝入機

鑄 銑 機

每分二百立方メートル以上ノ送風機

乾風裝置及其ノ附屬機械

瓦斯清淨裝置及其ノ附屬機械

洗炭裝置及其ノ附屬機械

骸炭爐用裝炭機、押出機又ハ搗炭機

骸炭爐副生物捕集裝置及其ノ附屬機械

汽罐及其ノ附屬裝置

五百馬力以上ノ瓦斯機關、瓦斯發電機又ハ排氣發電機及其ノ附屬裝置

鑄鍋起重機

製鋼爐用裝入機及其ノ附屬品

鋼塊抽出機

加熱爐又ハ均熱爐用鋼塊鋼片取扱機

壓延用ロール機及其ノ附屬裝置

壓延工場用輸送テーブル、鋸斷機、剪斷機、卷束機又ハ機械的冷却裝置

精整用錐孔機、穿孔機、^矯矮正機、鋸斷機又ハ剪斷機

ロール仕上機

ピニオン成齒機

鋼材鍛製用機槌、汽槌又ハ水壓機械裝置

強弱試驗機

前各號ニ掲クル機械ノ部分品及機械ト共ニ一組トシテ輸入セラルル附屬品、

附屬原動力機又ハ原動力機ノ附屬裝置、壓延用ロール機ノ附屬原動力機及原

動力機ノ附屬裝置

鎔鑛爐、熱風爐、骸炭爐、混銑爐又ハ製鋼爐用ノ耐火材料

電氣爐用炭素電極但シ直徑二十一吋未満ノモノヲ除ク

工場建設用鐵骨、電鍍鐵板、硝子板及其ノ取附金物

第十三條 製鐵業獎勵法施行令第十二條第二項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ニ

掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 輸入セムトスル物ノ種類、性質、能力、數量及豫定價額

二 輸入セムトスル物ノ用途及之ヲ使用スヘキ工場其ノ他ノ設備ノ説明

三 輸入ヲ必要トスル事由

四 製造者、輸出者及輸入豫定期、輸入豫定港 (大正七年農商務省令第五號ニテ改正)

第十四條 輸入税ノ免除ヲ受ケタル物ヲ目的タル用途ニ供シタルトキハ遲滯ナク

農商務大臣ニ届出ツヘシ目的タル用途ニ供セサルニ至リタルトキ亦同シ

大正十年農商務省令第二三號附則

本則ハ大正十年法律第七十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (同上法律ハ同年七月二十日ヨリ施行)

輸入税免除認可申請

五 製鐵業獎勵法施行規則

(大正十一年朝鮮總督府令第一九號)

第一條

製鐵業獎勵法施行令第五條ノ三第一項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ届書ニ記載シタル鋼材ヲ引渡シタルトキハ其ノ都度引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造時期、製造工場及引渡時期ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ。

第二條

製鐵業獎勵法施行令第五條ノ三第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

甲 船舶建造ノ場合

- 一 造船者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 二 工場ノ名稱及位置
- 三 船舶ノ製造番號
- 四 船舶ノ建造ニ使用スヘキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量
- 五 起工及竣工ノ期日

乙 船舶修繕ノ場合

- 一 船舶修繕者ノ氏名又ハ名稱及住所

- 二 工場ノ名稱及位置
- 三 一定期間ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量

第三條 製鐵業獎勵法施行令第五條ノ四ノ鋼材使用説明書ニハ左ニ掲クル事項ヲ

記載スルコトヲ要ス

- 一 鋼材ノ使用者及使用工場
- 二 建造ノ場合ニ在リテハ船舶ノ製造番號、修繕ノ場合ニ在リテハ船舶ノ名稱
- 三 使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場
- 四 鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ原料及燃料ノ購入消費、製品ノ生産販

賣、其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスヘキ書類帳簿ヲ鋼材製造工場ニ備ヘ置クヘシ

第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製鐵事業ニ付毎年一月三十一日迄

ニ其ノ前年ノ事業報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

前項ノ事業報告書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 事業概況

- (一) 資本總額
- (二) 從業者員
- (三) 職工勞働者數
- (四) 敷地面積
- (五) 工場建物ノ棟數及建坪
- (六) 原動機ノ種類、數及實馬力
- (七) 機關車及貨車數並軌道哩數
- (八) 汽船數及其ノ噸數
- (九) 生産品販賣高
- (十) 收支決算
- 二 製銑爐、製鋼爐、骸炭爐、壓延機
- (一) 種類及數
- (二) 能力
- (三) 操業日數
- (四) 生産額
- (五) 次年ノ生産豫定額

- (六) 能力增加其ノ他變更ニ關スル計畫
- 三 鍛鋼用主要汽槌及水壓機ノ種類、數、能力
- 四 製銑工場、製鋼工場、壓延工場其ノ他ノ工場
 - (一) 固定資本額
 - (二) 建物棟數及建坪
 - (三) 建物賃貸價格
 - (四) 職工勞働者數
- 五 銑鐵、鋼、鐵其ノ他ノ生産品
 - (一) 數 量
 - (二) 價 格
- 六 鐵鑛、石炭其ノ他ノ原料
 - (一) 生 産 地
 - (二) 數 量

附 則

本令ハ大正十一年勅令第二十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(大正十一年二月二十一日ヨリ施行)

六 製鐵設備計畫認可申請書記載例

參照(製鐵業獎勵法施行規則第四條)

- 一、製鐵所ノ位置及名稱
 - 何府何郡何町何字何番地(製鐵工場ノ位置)
 - 何縣何市何村何字何番地(製鐵工場ノ位置)
 - 何 製 鐵 所
- 二、資本金額何百萬圓
- 三、製鐵所設計ノ概要及設計圖
 - (イ) 敷地面積 何 坪
 - (ロ) 建 物

名 稱	棟 數	坪 數
製 銑 工 場		
製 鋼 工 場		
壓 延 工 場		

記載例

何工場	
事務所	

(ハ) 何用原動機ノ種類、數、及實馬力

何電動機 何基 何馬力

何々々 何基 何馬力

(ニ) 製鉄爐

何噸鎔鑛爐(高爐)何基

何噸電氣爐(何キロ式)何基

各爐別使用熱風爐ノ種類、數及熱面積(ヒーティングサーフェス)

何キロ變壓器何基計畫最高電力何程

送風機ノ種類、送風能力、實際使用馬力及一分間ノ送風量竝送風裝置ノ有

無

瓦斯除塵機又ハ乾風裝置ノ有無

(ホ) 骸炭爐

種類及數

一年間ノ生産能力

(ヘ) 製鋼爐

何噸平爐何基

何噸電氣爐(何キロ式)何基

何噸轉爐何基

何噸何爐何基

坩堝爐何基(何番型又ハ何キロ入坩堝何箇
裝入一箇一回ノ鎔解量何程)

瓦斯發生爐ノ種類、大サ、箇數

變壓器ノ種類、數、最高計畫電力

(ト) 壓延機

種類及數

各壓延機ノ一日ノ生産能力(生産シ得ヘキ鋼材ノ種類寸法ヲモ記載スヘシ)

(チ) 鍛鋼用主要機械

機槌、汽槌又ハ水壓機ノ數

各機ノ能力

記載例

備考 一、製鉄、製鋼用爐ニシテ着手及竣功時期ヲ異ニスルモノハ各別ニ記載スヘシ
二、種類ハ可成細別スヘシ

六、設備完成ニ至ル迄ノ毎年ノ生産豫定額及生産ノ順序方法

年 別	銑鐵	鋼鐵	壓延鋼材	鍛鋼品	鑄鋼品	鑄鐵品	何々	何々
大正何年								
大正何年								
大正何年								

備考 一、銑鐵ハ出銑高、鋼鐵ハ出鋼高、壓延鋼材ハ棒鋼、形鋼、板鋼、鋼管、軌條等ノ種類別ニ鍛鑄鋼品ハ素材ト製品ニ區分シ其ノ額ヲ記載スヘシ

二、生産品ノ種類毎ニ生産ノ順序方法ヲ備考ニ略記スヘシ

七、工事施行仕様書

工事着手ヨリ完成ニ至ル迄ノ工事ニ付各工場ノ種類毎ニ施行順序着手及竣功豫定時期等ヲ記載スヘシ但シ工事數年ニ涉リ仕様ノ確定セサルトキハ工事着手ヨリ作業開始ニ至ル迄ノ初期部分ノ仕様ノミヲ記載スヘシ

八、原料取得ノ計畫

鐵鑛、滿俺鑛、石炭、骸炭、木炭、銑鐵、屑鐵、鋼塊、鋼片等ノ產地電力供給ノ場所及一年間ノ使用數量竝ニ供給契約ノ有無等ヲ記載スヘシ

九、定 款

法人ナルトキハ定款ヲ添附スヘシ

右計畫御認可相成度製鐵業獎勵法第五條ニ依リ申請候也

年 月 日 住 所 氏 名
農商務大臣宛

記載例

七 製鐵事業計畫書記載方注意事項 參照(製鐵業獎勵法施行規則第二條)

一 資 本 額

(イ) 製鐵事業ニ對スル資本金額ヲ記載シ尙ホ之ヲ固定資本運轉資本ニ區分スヘシ

(ロ) 製鐵事業中營業稅所得稅ノ免除ヲ受クヘキ範圍ノ事業(製鐵業獎勵法施行令第一條ニ掲クル事業ヲ謂フ)ト其ノ他ノ事業(鑄鐵仕上作業及之ニ關聯スル合金作業等免稅ヲ受ケサル事ヲ謂フ)トヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ資本金額ヲ區分スヘシ

(ハ) 製鐵事業ト其ノ他ノ事業ヲ兼營シ又ハ製鐵事業中營業稅所得稅ノ免除ヲ受クヘキ範圍ノ事業ト其ノ他トヲ兼營スル場合ニ於テ其ノ區分明カナラサルモノニ付テハ事業ノ分量、投入資本其ノ他ニ依リ適當ニ見積リ推定ヲ以テ記載シ其ノ事由ヲ附記スヘシ

二 製鐵所設計ノ概要及設計圖

(イ) 設計ノ概要ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

(1) 製鐵所敷地面積工場其ノ他諸建物ノ名稱棟數及建坪

注意事項

- (2) 使用原動機ノ種類、數及實馬力
- (3) 製銑爐
 - (一) 種類及數
 - (二) 各爐別計畫能力(電氣爐ニ付テハ爐及變壓器ノ電力)
 - (三) 各爐別使用熱風爐ノ種類數及熱面積(ヒーティングサーフェス)
 - (四) 送風機ノ種類送風能力實際使用馬力及一分間ノ送風量並送風装置ノ有無
 - (五) 瓦斯除塵機又ハ乾風装置ノ有無
- (4) 骸炭爐
 - (一) 種類及數
 - (二) 一年間ノ生産能力
- (5) 製鋼爐
 - (一) 種類及數
 - (二) 各爐別計畫能力(電氣爐ニ付テハ爐及變壓器ノ電力、坩堝爐ニ付テハ坩堝ノ數並一箇一回ノ裝入量及製鋼量)
 - (三) 瓦斯發生爐ノ種類、大サ及箇數

(6) 壓延機

- (一) 種類及數
- (二) 各壓延機ノ一日ノ生産能力(生産シ得ヘキ鋼材ノ種類寸法ヲモ記載スヘシ)

(7) 鍛鋼用主要機械

- (一) 機槌、汽槌又ハ水壓機ノ數
- (二) 各機ノ能力

(8) 其ノ他設備ノ概要

(9) 設計圖

- (一) 全設計圖
- (二) 製銑爐及製鋼爐ニ付テハ爐別ニ其ノ容量又ハ大サヲ明ニスルコトヲ得ヘキ設計圖

三 工事著手時期ハ基礎工事ニ着手シタル時期ヲ記載スヘシ

四 開業又ハ能力増加ノ時期ハ爐別ニ其ノ始メテ出銑又ハ出鋼ノ豫定期期ヲ記載スヘシ

五 生産品名及生産ノ順序方法

生産品ハ銑鐵、鋼塊、鋼片、壓延鋼材（棒鋼、形鋼、平鋼、板鋼、鋼管、軌條、繼目板等ニ區分シ且ツ其ノ最小最大ノ寸法ヲ記載スルコト）鍛鋼品（主タル種類及重量ヲ記載スルコト）、鑄鋼品（同上）、副生物（種類毎ニ區分スルコト）其ノ他製鐵業ニ關聯スル作業ノ生産品（同上）等ニ區分シ其ノ生産ノ順序方法ヲ略記スヘシ

六 一年間ノ生産品ノ種類別生産豫定額

- (イ) 生産品名ハ銑鐵、鋼鐵、鋼塊、鋼片、壓延鋼材（區分ハ前號ニ依ル）鍛鋼品（同上）、鑄鋼品（同上）、副生物（同上）、其ノ他（同上）等ニ區分スヘシ
- (ロ) 生産豫定額ハ銑鐵ニ付テハ出銑量、鋼鐵ニ付テハ出鋼量、鋼塊、鋼片ニ付テハ原料ニ供スルモノト雖モ總生産豫定高ヲ記載スヘシ
- 七 原料取得ノ計畫ニハ鐵鑛、滿俺鑛、石炭、骸炭、石灰石、銑鐵、屑鐵、鋼塊鋼片等ノ產地一年間ノ使用數量及供給契約ノ有無等ヲ記載スヘシ
- 八 既設工場ヲ繼承シタルモノナルトキハ前經營者ノ住所氏名及當該工場ノ沿革ヲ記載スヘシ
- 九 所得稅營業稅ノ免除ヲ受クルモノト其ノ他ノモノトアルトキハ其ノ區分ヲ記載スヘシ

十 會社ナルトキハ定款ヲ添附スヘシ

八 製鐵能力增加計畫記載方注意事項

(參照 製鐵業獎勵
法施行規則第二條
大正七年鑛局第一
二號通牒)

一 資本金額生産品名及生産ノ順序方法、原料取得ノ計畫其ノ他ニシテ曩ニ届出タル計畫書ノ記載事項ニ變更ナキトキハ其ノ旨ヲ記載シ特ニ其ノ事項ヲ記載スルニ及ハス變更アリタルトキハ變更後ノ事項ヲ記載スヘシ

二 製鐵所設計ノ概要及設計圖

(イ) 敷地面積及工場其ノ他諸建物ノ名稱及建坪ニシテ曩ノ届出ニ對シ異動ヲ生シタルモノハ現在ノ分ヲ記載シ尙ホ増加變更等ノ計畫アルトキハ其ノ種類、數、設備完成ノ時期等計畫ノ概要ヲ記載スヘシ

(ロ) 使用原動機ノ種類數及實馬力ニ付テハ前項ニ依ル

(ハ) 製銑爐、製鋼爐ニ付テハ増加スヘキ爐ノ種類、數、各爐別計畫能力竝之ニ對スル熱風爐、送風機、瓦斯發生機ノ種類、數、能力、大サ等ヲ記載スヘシ

(ニ) 骸炭爐ヲ増加シタルトキハ現在ノ種類、數、一箇年ノ生産見込額ヲ記載シ尙ホ増加計畫中ノモノアルトキハ其ノ種類、數、完成時期及完成後ニ於ケル一箇年ノ生産見込額ヲ記載スヘシ

注意事項

(ホ) 壓延機ヲ増加シタルトキハ現在ノ種類、數、及各壓延機一年ノ生産能力ヲ記載シ尙ホ増加計畫中ノモノアルトキハ其ノ種類、數、能力竝完成時期ヲ記載スヘシ

(ト)(ヘ) 鍛鋼用汽槌又ハ水壓機ニ付テハ前項ニ依ル製鐵所ノ全設計圖ハ異動ヲ生シタルトキニ限り提出スヘシ製銑爐及製鋼

爐ニ付テハ増加スヘキ爐ノ容量又ハ大サヲ明ニスルコトヲ得ル設計圖ヲ提出スヘシ但シ曩ニ提出シタル設計圖ニシテ増加爐ト其容量又ハ大サヲ同フスルモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載シ省略スルコトヲ得

三 工事着手ノ時期

(イ) 増加爐ノ築造ニ着手シタル時期ヲ爐別ニ記載スヘシ

(ロ) 增加工場ニ付テハ其ノ工事ニ着手シタル時期ヲ工場別ニ記載スヘシ

四 能力増加ノ時期ハ増加爐ニ付爐別ニ工事竣工豫定時期及出銑又ハ出鋼豫定時期ヲ記載スヘシ但シ増加爐ニシテ既ニ作業ヲ開始シタルモノアルトキハ各爐別(番號ヲ附シタルモノ)ニ始メテ出銑又ハ出鋼ノ年月日ヲ記載スヘシ

五 一箇年間ノ生産品ノ種類別生産豫定額ニ付テハ現在作業中ノ爐(既設爐及増加ノ開始ノモノヲ含ム)ニ對スルモノト増加計畫完成後ノモノニ區分記載スヘシ

追テ製銑爐製鋼爐其ノ他ノ増加計畫届出後其ノ増加設備ニ依リ實際作業ヲ開始シタルトキハ其ノ種類、數、能力、開始年月日(爐ニ付テハ出銑又ハ出鋼ノ日)ヲ其都度届出ツヘシ

九 製鐵事業報告書記載例

(參照 製鐵業獎勵法施行規則第六條)

大正何年製鐵事業報告書

何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地(製造場ノ位置)

何 製 鐵 所

一、十二月末日ニ於ケル事業概況

職工勞働者數	從業者數	資本總額(投資額)		免稅ヲ受クヘキモノ	其ノ他ノモノ	計	備考
		固定資本	運轉資本				

(免稅ヲ受クルモノト其ノ他ノモノトアルトキハ其ノ區分ニ付左ノ例ニ依リ算出ノ方法ヲ附記説明スルコト)

(イ) 固定資本ハ工場其ノ他築造物明細表ニ記載セルモノノ外何々價額何程ヲ何々ノ割合ニ依リ何程ヲ免事業報告書記載例

事業報告書記載例

(ロ) 税ノ分ニ何程ヲ其ノ他ノ分ニ計算シタリ
 運轉資本ハ何々何程ヲ何々ノ割合ニ依リ免税ノ分ニ何程ヲ其ノ他ニ計算シ何々何程ハ免税ノ分ニ何々何程ハ其ノ他ニ計算セリ
 従業者數ハ何々ニ依リ區分計算セリ
 職工勞働者數ノ區分ハ工場其ノ他築造物明細表ノ通

工場敷地ノ總坪數	工場其ノ他建物ノ總棟數	同 總 坪 數	種 類	數	實 馬 力	備 考
備 考	備 考	備 考	蒸 汽 機 關	基	基	
			蒸 汽 タ ー ビ ン	輛	輛	
			機 關	輛	輛	
			貨 車	輛	輛	
			軌 道	哩	哩	

一月ヨリ十二月ニ至ル一年間ノ生産品販賣高

汽 船	其 他	品 名	販 賣 額	移 出 及 使 用	計	備 考
		銑 鐵	佛 噸	佛 噸	佛 噸	
		合 金 銑				
		鋼 塊				
		鋼 片				
		壓 延 鋼 材				
		鍛 鋼 素 材				
		鑄 鋼 素 材				
		鍛 鋼 製 品				仕 上 作 業 ヲ 施 シ タ ル モ ノ

摘要	一月ヨリ十二月ニ至ル一年間ノ收支決算	計	何々	何々	合金品	鑄鐵品	鑄鋼製品	備考
差引損益金								
支出								
收入								

(イ) 製銑第何號何噸高爐ハ免稅ヲ受ケサルモノニ付能力ノ按分ニ依リ銑鐵販賣價額何程ノ内何程何々
 (免稅ヲ受ケサルモノト其ノ他ノモノトアルトキハ其ノ區分ニ付左ノ例ニ依リ算出ノ方法ヲ附記説明スル
 コト)

(ロ) 販賣價額何程雜收入何程ノ内何程ヲ免稅ヲ受ケサルモノトシテ計算セリ
 製鋼、壓延鋼材、鍛鑄鋼素材製造ニ要シタル經費何程ハ免稅ヲ受ケル爐ト其ノ他ノ爐ノ能力ノ按
 分ニ依リ何程ヲ免稅ヲ受クヘキ分ニ何程ヲ其ノ他ノ分ニ計算シ鍛鑄鋼製品製造ニ要シタル經費何
 程及雜支出何程ノ内何々ノ割合ニ依リ何程ヲ免稅ヲ受ケサルモノトシテ計算セリ

二、製鐵作業明細表
 製銑爐

番號	種類	一日ノ生産能力 年々	一月ヨリ十二月ニ至ル 操作日數	生産額	翌年一月ヨリ 十二月ニ至ル 生産豫定額	免稅ヲ受ケル モノト其ノ他ノ 區別	備考
計						非	
	何キ口 電氣爐					免	

製鋼爐

番號	種類	一日ノ生産能力 年々	一月ヨリ十二月ニ至ル 操作日數	出鋼回數	生産額	翌年一月ヨリ 十二月ニ至ル 生産豫定額	免稅ヲ受ケル モノト其ノ他ノ 區別	備考
計								
	何キ口 電氣爐						非	

種	類	數	生産能力	一月ヨリ十二月		翌年一月ヨリ十二月		備	考
				ニ至ル生産額	佛	ニ至ル生産額	佛		
骸炭爐									
計									
壓延機									
種	類 <td>數</td> <td>生産シ得ヘキ鋼材ノ種類</td> <td>同寸法生産能力</td> <td>一月ヨリ十二月ニ至ル生産額</td> <td>佛</td> <td>翌年一月ヨリ十二月ニ至ル生産額</td> <td>佛</td> <td>備</td>	數	生産シ得ヘキ鋼材ノ種類	同寸法生産能力	一月ヨリ十二月ニ至ル生産額	佛	翌年一月ヨリ十二月ニ至ル生産額	佛	備
計									
能力増加ニ關スル計畫									
計									

區	分	種	類	能	力	數	作業開始	翌年中ノ	備	考
製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製
鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼
爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐
骸	骸	骸	骸	骸	骸	骸	骸	骸	骸	骸
炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭
爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐	爐
壓	壓	壓	壓	壓	壓	壓	壓	壓	壓	壓
延	延	延	延	延	延	延	延	延	延	延
機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機

變更ニ關スル計畫

製銑爐、製鋼爐、骸炭爐及壓延機ノ變更計畫ノ概要着手及完成豫定期並ニ完成後ニ於ケル生産高ノ増減ニ關スル事項ヲ記載スルモノトス

三、十二月末日現在鍛鋼用主要機械

名	稱	種	類	數	能	力	生産品ノ重	備	考
機	槌								
汽	槌								
水	壓	機							

(増加若ハ變更計畫アルトキハ備考ニ其ノ概要ヲ記載スルモノトス)

四、十二月末日現在工場其ノ他築造物明細表

事業報告書記載例

注意事項

六四

何

々

七、營業報告書及定款ハ別冊ノ通

右之通候也

住所

年月日

氏

名

農商務大臣宛

事業報告書調製ニ關スル注意事項(大正七年鐵局第一八號通達)

- 一、製鐵事業ト其ノ他ノ事業トヲ兼營シ又ハ製鐵事業中營業稅、所得稅ノ免除(以下免稅ト稱ス)ヲ受クヘキモノト其ノ他(免稅ヲ受クヘカラサルモノヲ謂フ)ノモノトヲ兼營スルモノニシテ其ノ區分明カナラサルトキハ事業ノ分量、資本、其ノ他ニ依リ適宜ニ見積リ推定ヲ以テ記載シ其ノ事由及算出ノ方法ヲ附記説明スヘシ
- 二、免稅ヲ受クヘキ事業ノ範圍ト其ノ他ノ區分ニ關シテハ左記各號ヲ參照スヘシ

- (一) 製鐵所ト所在ヲ異ニスル會社本店ハ他業ヲ兼營セサル限り製鐵業ヲ營ムモノトシテ免稅ヲ受ク
- (二) 製鐵業ニ要スル木炭骸炭ノ製造所ハ製鐵所ト分離シアル場合ニ於テモ製鐵業ノ一部ト看做シ免稅ヲ受ク
- (三) 原料製品等ノ運搬ニ專用スル製鐵所々屬ノ汽船ハ製鐵業所屬ノ資産トシテ免稅ヲ受ク
- (四) 製鐵所ト遠隔セル地ニ在ル製鐵所々屬發電所ニシテ主トシテ工場ニ動力ヲ供給スルモノハ專ラ製鐵事業ノ範圍ト認ムヘキ部分ヲ見積リ其ノ部分ニ對シ免稅ヲ受ク
- (五) 銑鐵、鋼鐵、壓延鋼材鍛鋼製品ノ素材、鑄鋼製品ノ素材及製鐵業獎勵法施行規則第一條ニ規定セル副生物ノ製造ニ關スル事業ハ免稅ヲ受ク(令第一條參照)
- (六) 鑄鐵品、製品ノ仕上作業及之ニ關聯スル合金作業等ハ免稅ヲ受ケサルモノトス但シ自家用ニ供スルモノハ免稅ヲ受ク
- (七) 買入又ハ自己經營ニ係ル他ノ製鐵所ヨリ移入シタル鋼塊若ハ鋼片ヲ以テ生産シタル鋼材ニ付テハ免稅ヲ受ケサルモノトス

注意事項

六五

- (八) 鍛鋼製品ノ素材若ハ鑄鋼製品ノ素材ノ製造(免稅ヲ受クヘキモノ)ト製品ノ仕上作業(免稅ヲ受ケサルモノ)ノ範圍ハ左ノ區分ニ依ル
 - (イ) 鍛鋼製品ノ素材トハ最初ニ鍛鍊シ所要ノ大サニ切斷スル迄即チ仕上機械ニ掛クル前迄ノ作業ヲ謂ヒ其ノ後ノ作業ヲ製品ノ仕上作業トス
 - (ロ) 鑄鋼製品ノ素材製造トハ湯口ヲ切斷シ燒鈍爐ニ入ル迄ノ作業ヲ謂ヒ其ノ後ノ作業ヲ製品ノ仕上作業トス
- (九) 事務所、倉庫、製品検査場試験場等ノ資本金、建物賃賃價格從業者等ハ使用ノ直接タルト間接タルトヲ問ハス免稅ヲ受クヘキ範圍ノ事業ニ使用スル部分ト其ノ他ノ部分トヲ見積リ區分スルモノトス
- 三、免稅ヲ受クヘキ爐ト其ノ他ノ區分ニ關シテハ左記各號ヲ參照スヘシ
 - (一) 開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間免稅ヲ受ク
 - (二) 五千二百五十佛噸以上ノ能力アル爐ヲ増加シタルトキハ其ノ爐ニ付テハ増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間免稅ヲ受ク
 - (三) 一計畫ノ認可ヲ受ケタルモノニ付テハ計畫完成前計畫中ノ一部分竣成シ其ノ爐ヲ以テ作業ヲ開始シタル場合ト雖モ計畫全部完成シタル年即チ最後ニ竣成シタル爐ノ作業ヲ開始シタル年ヲ以テ開業又ハ能力増加ノ年ト見做

- シ其ノ年ヨリ免稅年限ヲ計算ス
- (四) 免稅ト其ノ他トヲ區分スルニハ大體爐ノ能力ヲ按分ニ依ル但シ新規作業ノ爐ニ付テハ月割ヲ以テ計算スルモノトス
- 四、年額ヲ以テ記載スルモノハ歷年ト異リタル事業年度ノ定メアルモノト雖モ總テ一月ヨリ十二月ニ至ル歷年ヲ以テ計算スルモノトス又重量ヲ以テ計算スルモノハ總テ佛噸ニ依ルヘシ
- 五、事業概況ハ十二月末日ノ現況ニ依リ記載スヘシ
 - 固定資本金ハ實際投資額ヨリ償却シタル部分ヲ控除シタルモノヲ記載シ尙償却シタル金額ヲ備考ニ記載スヘシ又資本金(固定資本、運轉資本ニ區別ス)及從業者數職工労働者數ハ作業ノ實況ニ依リ免稅ヲ受クヘキモノト其ノ他ニ區分シ其ノ算出ノ方法ヲ附記説明スヘシ
- 六、生産品販賣高ハ一月ヨリ十二月ニ至ル一年間ニ於テ實際販賣シタルモノト加工又ハ仕上作業等ヲ爲スタメ自己ノ經營スル他ノ製鐵所ニ移出シタルモノ又ハ製鋼若ハ鋼材製造以外ニ使用シタルモノトヲ區分記載スヘシ
 - 品名ハ銑鐵、合金銑、鋼塊、鋼片、壓延鋼材、鍛鋼素材、鑄鋼素材、鍛鋼製品、鑄鋼製品、副生物(種類ヲ區分ス)屑物、鑄鐵品合金品等ニ區分スヘシ

七、收支決算ハ一月ヨリ十二月ニ至ル一年間ノ收支損益ノ各總額ヲ免除ヲ受クヘキモノト其ノ他ニ區分記載スヘシ

生産品販賣代金、移出若ハ使用ニ對スル見積價格其ノ他一切ノ收入ヲ以テ收入トシ原料購入代金生産諸費其ノ他營業ニ關スル一切ノ經費ヲ支出トシ其ノ差引損益ヲ計算記載スヘシ

免稅ヲ受ケサル鍛鑄鋼製品ノ收支ハ仕上作業ヲ施シタル製品ノ販賣價額ヨリ使用シタル素材(仕上機械ニ掛ケサル前ノモノ)ノ見積價額ヲ控除シタルモノヲ收入トシ仕上作業ノ經費ヲ支出トシテ其損益ヲ計算シ其ノ算出方法ヲ附記説明スヘシ

免稅ヲ受クル爐ト其ノ他ノ爐トアルトキハ能力及作業月數等ニ依リ按分シ其ノ算出ノ方法ヲ附記説明スヘシ

買入又ハ自己ノ經營スル他ノ製鐵所ヨリ移入シタル鋼塊若ハ鋼片ヲ以テ鋼材ヲ生産シタル場合ハ自製鋼ト買入鋼ノ原料使用數量ノ按分ニ依リ免稅ヲ受クルモノト其ノ他ノモノトヲ區分シ其ノ算出ノ方法ヲ附記説明スヘシ

八、製鐵作業明細表ハ十二月末日現在ニ依リ製銑爐製鋼爐ニ付テハ爐別ニ骸炭爐壓延機ニ付テハ種類ノ異ナル毎ニ區分記載スヘシ
爐ノ種類ニハ何噸高爐、何噸平爐、何噸轉爐、何キロワット電氣爐、坩堝爐

(何番型又ハ何貫匁若ハ何疋入坩堝何箇裝入ト備考ニ附記スルコト)等ノ稱呼別ヲ作業開始年月日ニハ始メテ出銑若ハ出鋼シタル日ヲ記載スヘシ

免稅ヲ受クルモノト其ノ他ノ區分ハ免又ハ非ノ記號ヲ以テ之ヲ區分スヘシ以下諸表亦同シ

九、工場其ノ他築造物明細表ハ十二月末日現在ニ依リ工場、事務所其ノ他ノ築造物ニ付記載スルモノトス製鐵所ト所在ヲ異ニスル會社本店ノ事務所骸炭木炭ノ製造所發電所等ニシテ製鐵業所屬ノモノニ付テハ其ノ所在地ヲ備考ニ記載スヘシ

名稱ハ製銑工場、製鋼工場、壓延工場、鍛鋼工場、鑄鋼工場、機械工場、骸炭工場、發電所事務所等ニ區分スヘシ

固定資本、職工勞働者數ノ總計ニシテ事業概況ノ部ノ數ト一致セサル場合ハ其ノ數及事由ヲ附記説明スヘシ

同一工場内ニ於テ免稅ヲ受クヘキ作業ト其ノ他ノ作業トヲ營ム場合ニ於テハ爐ノ能力、作業ノ分量等ヲ標準トシ適宜免稅ヲ受クルモノト其ノ他トニ配分シ其ノ算出ノ方法ヲ備考ニ附記スヘシ

固定資本額ハ土地家屋築造物及器具機械等ノ價額ヲ事業概況ノ部固定資本計

算ト同一方法ニ依リ計算スルモノトス但シ土地其ノ他ノ物件ニシテ各工場ニ
 專屬セサルモノニ付テハ適宜配算スヘシ
 建物賃借額ハ其ノ借入タルト自己ノ所有タルトヲ問ハス造作付家屋ヲ賃借
 シタル場合ニ於テハ貸主ニ支拂フヘキ一箇年分ノ借料ヲ計算記載スルモノト
 ス

十、生産品明細表ハ一月ヨリ十二月ニ至ル一年間ノ生産品(獎勵法ノ適用アルト否ト
 生産シタル)ニ付品名及種類ノ異ナル毎ニ區分記載スルモノトス
 一切ノモノ)ニ付品名及種類ノ異ナル毎ニ區分記載スルモノトス
 品名ハ銑鐵、合金銑、鋼塊、鋼片、壓延鋼材、鍛鋼素材、鑄鋼素材、鍛鋼製品、
 鑄鋼製品、特殊鋼材、副生物(種類別ニ
 區分ス)、鑄鐵品、合金品等ニ區分スヘシ
 種類ハ銑鐵ハ骸炭銑、木炭銑、再製銑等ニ合金銑ハ滿俺鐵、鏡鐵、硅素鐵、硅素
 滿俺鐵、タングステン鐵、クロム鐵等ニ壓延鋼材ハ條鋼、形鋼、鈹鋼、鋼管、軌
 條、軌條附屬品、線材等ニ鍛鋼品及鑄鋼品ハ重ナル種類別ニ、特殊鋼材ハ炭
 素鋼、高速度鋼等ニ區分スヘシ
 銑鐵合金銑鋼塊鋼片鍛鋼素材及鑄鋼素材ノ産額ハ原料ニ供シタルモノ販賣シ
 タルモノ及翌年へ持越シタルモノ等其ノ年ニ於ケル生産高全部ヲ記載スルモ
 ノトス

十一、使用原料明細表ハ一月ヨリ十二月ニ至ル一年間ニ於テ製銑、製鋼、鋼材製
 造ノ原料ニ供シタルモノ及當該製鐵所ニ於テ使用シタル鐵鑛滿俺鑛其ノ他ノ
 鑛石砂鐵鐵滓、屑鐵、石炭、骸炭、石灰石、苦灰石、木炭、硅石、電極、電力、及銑
 鐵、合金銑、鋼塊、鋼片、鍛鋼素材、鑄鋼素材等ニ付各種類別ニ購入ト自營トニ
 區別シ且ツ產地及用途ノ異ナル毎ニ區分記載スヘシ
 產地國名ハ内地、朝鮮、支那、米國、英國、印度等ノ別鑛山名又ハ製造所名ハ主
 タルモノヲ掲クヘシ
 用途ハ銑鐵ニ付テハ製鋼用、鑄鐵用等ニ石炭ニ付テハ骸炭製造用、瓦斯發生
 用、其ノ他雜用等ニ區分シ其ノ他ノモノニ付テハ之ニ準シ區分スヘシ且ツ鑄
 鐵、合金作業等獎勵法ノ適用ナキモノノ生産ニ使用シタルモノト雖モ記載ス
 ルモノトス
 十二、事業報告書ハ正副二通ヲ提出スヘシ尙會社ニ在リテハ其ノ年ニ於ケル事
 業年度ノ營業報告書、財産目錄、損益計算表、貸借對照表各一通、定款ノ改
 正アリタルトキハ改正定款一通ヲ添附スヘシ

一〇 獎勵金ノ交付ヲ受クルニ要スル手續説明書

〔其一〕

(大正十年鐵局
第一六二號通牒)

鋼材製造者カ獎勵金ノ交付ヲ受クルニ要スル手續ハ其ノ鋼材カ海軍艦船ニ使用セラルル場合ト海軍艦船以外ノ船舶ニ使用セラルル場合トニヨリテ異リ又鋼材使用者カ鋼材製造者ナル場合ト然ラサル場合トニヨリテ異リ左ニ各場合ニ付其ノ手續ヲ列記スヘシ

甲 鋼材カ海軍艦船ニ使用セラルル場合

イ 鋼材製造者自ラ鋼材ヲ使用スル場合

- (一) 鋼材使用前ニ海軍艦船用鋼材豫定數量届(様式第一 甲ニ依ル)ヲ農商務大臣竝鋼材使用工場所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ニ提出スルコトヲ要ス〔令第五條ノ三第一項 海第三條第一項〕右届書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ツルコトヲ要ス〔令第五條ノ三第三項、海第三條第三項〕
- (二) 前號ニ依リ届出タル鋼材カ海軍艦船ニ使用セラレタル場合ニハ其ノ鋼材ヲ使用シタル工場ノ所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ニ鋼材使用證明申請書ヲ提出シ其ノ證明ヲ受ケ(海第二條第五條第九條)之ヲ添附シテ獎勵金交付申請書(様式第四 甲ニ依ル)ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス〔令第五條ノ四〕

手續説明書

ロ 鋼材製造者其ノ製造ニ係ル鋼材ヲ他ノ造船者若ハ船舶修繕者ニ供給スル場合

(一) 鋼材引渡前ニ海軍艦船用鋼材豫定數量屆(様式第一)ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス(令第五條第一項)

右屆書ハ其ノ鋼材カ海軍工作廳ニ於テ使用セラルル場合ニハ當該海軍工作廳長、其ノ他ノ造船工場ニ於テ使用セラルル場合ニハ其ノ工場所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ニモ之ヲ提出スルコトヲ要ス(海第三條第一項)

前項ノ海軍官憲ニ提出スヘキ屆書ハ鋼材製造者其ノ鋼材ヲ海軍工作廳以外ノ造船者(又ハ船舶修繕者)ニ引渡ス場合ニハ引取人ト連署スルコトヲ要ス(海第三條第二項)

前三項ノ屆書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツルコトヲ要ス(令第五條ノ三第三項)

海第三條第三項
(二) 前號ニ依リ届出タル鋼材ヲ引渡シタルトキハ引取人ト連署ノ上鋼材引渡屆(様式第三)ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス(則第五條ノ二)

右屆書ハ鋼材ヲ海軍工作廳以外ノ造船者(又ハ船舶修繕者)ニ引渡シタルトキハ其ノ工場所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ニモ之ヲ提出スルコトヲ要ス(海第四條)

(三) 海軍艦船用鋼材豫定數量屆ニ依リ届出タル鋼材カ海軍艦船ニ使用セラレタル場合ニハ其ノ鋼材ヲ使用シタル海軍工作廳長又ハ鋼材使用工場所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ニ鋼材使用證明申請書ヲ提出シ其ノ證明ヲ受ケ(海第二條第五條第九條)之レヲ添附シテ獎勵金交付申請書(様式第四)ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス(令第五條ノ四)

乙 鋼材カ海軍艦船以外ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラルル場合

イ 鋼材製造者自ラ使用スル場合

(一) 鋼材製造者ハ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ヲ使用セムトスル船舶ニ付一隻毎ニ(修繕ノ場合ニ依リテハ修繕用物品ノ承認申請ニ付テ一定ノ期間ヲ定メ其ノ期間毎ニ)豫メ船舶建造及修繕用物品承認規則(遞信)ニ依リテ船舶建造(又ハ修繕)用物品承認書ヲ受ケ該承認ニ關スル書面(様式第二)ヲ添附シ該書面ニ記載セル獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材中自己ノ製造ニ係ルモノニ付船舶用鋼材豫定數量屆(様式第一)ヲ鋼材使用前ニ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス(令第五條第一項第二項、則第五條ノ三)

右書面ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツルコトヲ要ス、管海官廳ノ承認ヲ受ケタル事項中製鐵業獎勵法施行規則第五條ノ四ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ニ付管海官廳ノ承認更正書(船)ヲ受ケ該承認更正ニ關スル書面(様式第二)ヲ添附スルコトヲ要ス(令第五條第三項第四項)

(二) 前號ニ依リ届出タル鋼材ヲ使用シタル船舶ノ建造(又ハ修繕)カ了リタルトキハ管海官廳ノ竣

工承認書(船)ヲ受ケ該竣工承認申請ニ添附セル明細書ニ記載シタル獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ自己ノ製造ニ係ル鋼材使用説明書(様式第五)ヲ右竣工承認書寫ト共ニ獎勵金交付申請書(様式第四)ニ添附シ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス(令第五條ノ四)
(乙ニ依ル)

ロ 鋼材製造者其ノ製造ニ係ル鋼材ヲ他ノ造船者(又ハ船舶修繕者)ニ供給スル場合

(一) 鋼材製造者ハ造船者(又ハ船舶修繕者)ヨリ船舶建造(又ハ修繕)用物品承認ニ關スル證明書(様式第二)ヲ受ケ該書面ニ記載シタル獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材中自己ノ供給スヘキ部分ニ付船舶用鋼材豫定數量(様式第一)ヲ鋼材引渡前ニ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス(令第五條ノ三)
(乙ニ依ル)

右書面ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス、管海官廳ノ承認ニ關スル證明書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ造船者(又ハ船舶修繕者)ヨリ承認更正ニ關スル證明書(様式第二)ヲ添附スルコトヲ要ス(令第五條ノ三)
(乙ニ依ル)

(二) 前號ニ依リ届出タル鋼材ヲ造船者(又ハ船舶修繕者)ニ引渡シタルトキハ鋼材引渡届(様式第三)ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス(則第五條ノ二)

(三) 造船用鋼材豫定數量届ニ依リ届出タル鋼材ヲ使用シタル船舶ノ建造(又ハ修繕)カ了リタルトキハ造船者(又ハ船舶修繕者)ヨリ船舶建造(又ハ修繕)竣工承認書寫ヲ受ケ鋼材使用説明書(様式第五)

(ニ依ル)ト共ニ獎勵金交付申請書(様式第四)ニ添附シ農商務大臣ニ提出スルコトヲ要ス(令第五條ノ五)
(乙ニ依ル)

[其二]

(大正十一年鐵局
第二五六號通牒)

届書及申請書ニ記載スヘキ鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期、引渡時期、使用時期、鋼材使用者及鋼材使用工場等ノ記載方及注意事項

第一 鋼塊、鋼片以外ノ鋼材ニ關スル場合

- 一、鋼材豫定數量届ニ在リテハ鋼材ノ名稱、鋼質、寸法、單重量、用途、箇數、總重量及製造時期(鋼材ノ番號使用箇所ノ詳細等ヲ附記スルモ妨ナシ)ヲ表示スヘシ
 但シ鋼材ノ名稱、鋼質、用途及製造時期ハ各個ニ付テ記載セス包括的ニ記載スルコトヲ得
 尙種類數量ノ詳細表カ鋼材製造者記名調印シタルト同一紙面ニ在ラサルトキハ鋼材製造者記名調印シタルト同一紙面ニ(已ムヲ得サルトキハ別紙)鋼材ノ種類別總數量ヲ記載スヘシ
- 二、鋼材引渡届ニ在リテハ前號ノ記載事項ノ外引渡時期(鋼材ヲ他ニ讓渡シタル場合)ヲ記載スヘシ若シ鋼材カ月ヲ異ニシテ引渡ササル場合ニハ月毎ニ集計スヘシ
- 三、鋼材使用説明書及鋼材使用證明申請書ニ在リテハ第一號ノ記載事項ノ外鋼材引渡時期又ハ使用時期(鋼材製造者ニ於テ鋼材ヲ使用シタル場合)ヲ記載スヘシ、鋼材カ月ヲ異ニシテ引渡サレ又ハ使用セラ
 ルルトキハ月毎ニ集計スヘシ

第二 鋼塊又ハ鋼片（鍛造用ノモノ）ニ關スル場合

一、海軍艦船用鋼材豫定數量屆、船舶用鋼材豫定數量屆（令第五條ノ三）鋼材引渡屆（則第五條ノ二）及鋼材使用證明申請（海）ニシテ鋼塊又ハ鋼片ニ關スルモノニ在リテハ其ノ種類、數量、用途、製造時期、引渡時期又ハ使用時期ハ様式第六ニ依リ鋼塊又ハ鋼片一個毎ニ（但シ多數ノ鋼塊又ハ鋼片ヨリ同種ノ鍛造品ヲ多數製作スル場合ニハ之ヲ集計シテ記載スルコトヲ得）之ヲ一欄ニ表示シ使用重量（次號參照）ノ合計ヲ鋼材製造者カ記名調印シタルト同一紙面ニ記載スヘシ

但シ鋼材豫定數量屆ニ在リテハ鋼材ノ使用時期又ハ引渡時期ヲ記載スルヲ要セス其ノ他ノ事項ニ付テモ豫定シ得ル限度ノ記載ヲ以テスル

鋼材引渡屆、鋼材使用證明書、鋼材使用證明申請書ニ在リテハ鋼塊又ハ鋼片ヲ自ラ鍛造シタル場合ニハ使用時期（鍛造ノ月）、鋼塊又ハ鋼片ノ儘讓渡シタル場合ニハ引渡時期（引渡ノ月）ヲ記載シ月毎ニ集計スヘシ

二、様式第六記載事項中鋼塊又ハ鋼片ノ使用重量ハ鍛造品製造ニ實際要シタル鋼塊、鋼片ノ總重量ヲ掲クヘシ但シ右使用重量ハ當該鋼塊又ハ鋼片ヨリ製造シタル造船用鍛造品ノ鍛造重量ニ左ノ比率ヲ乘シタル數量ヲ超エサル範圍内ニ於テ認定セラルヘキモノトス

一、鋼塊ノ場合

イ、海軍造船材料試驗規格機關製造材料ノ部

第二十二條ノ一、三ニ依ルモノ……………二

ロ、其他ノモノ……………一・五

二、鋼片ノ場合……………一・〇五

三、鋼塊又ハ鋼片ヲ其ノ製造者ニ於テ鍛造ノ上讓渡スル場合ニ在リテモ船舶建造及修繕用物品承認規則ニ依リ造船者（又ハ船舶修繕者）カ管海官廳ヨリ承認ヲ受ケ又ハ竣工承認申請ニ添附スル明細書ニ記載スヘキ鋼材ノ種類及數量ハ前號ニ述ヘタル鋼塊又ハ鋼片ノ使用重量ナリ（鍛造品ノ重量ニ在ラス）故ニ此ノ場合ニハ鋼材製造者ハ管海官廳ノ承認ヲ受クル者ニ使用重量ヲ通知スルコトヲ要ス

鋼塊又ハ鋼片ヲ其ノ製造者ニ於テ其ノ儘讓渡スル場合ニ在リテハ鍛造品ノ名稱及其ノ鍛造重量等ヲ造船者（又ハ船舶修繕者）ヨリ通知ヲ受クルコトヲ要ス、海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則ニ依リ證明申請ヲ爲ス者カ鋼材鍛造者ニ非サル場合ニ在リテモ亦同シ

四、鋼塊又ハ鋼片ヲ其ノ製造者ニ於テ鍛造ノ上讓渡スル場合ニ在リテハ鋼材引渡屆ヲ要セス

五、製造者ニ於テ鋼片トシテ引渡シ引取人ニ於テ鍛造スル場合ニ在リテハ製造者ハ鋼片ニ對シテ獎勵金ノ交付申請ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ右鋼片ノ引渡屆ヲ要ス鋼材使用證明書又ハ鋼材使用證明申請ニハ引渡時期ヲ記載スヘキモノトス

第三 鋼材使用者及鋼材使用工場ノ記載方

鋼材カ船體工事ヲ爲ス工場ト異ル工場ニ於テ船舶ノ一部ノ工事ニ使用セラレタル場合ニ在リテハ鋼材豫定數量屆、鋼材使用證明書及鋼材使用證明申請ニ於テ鋼材使用者及鋼材使用工場トシテ右直接使用工場及造船工場ヲ併記シ各工場ノ工程ヲ明ニスヘシ 但シ鋼塊又ハ鋼片ヲ其ノ製造工場ニ於テ鍛造ノ上讓渡シタル場合ニ在リテハ右鍛造工場ハ鋼材ノ使用工場トシテ記載スルヲ要セス

第四 重量單位及其ノ換算率

重量單位ハ總テ佛噸(噸)ヲ用キ廷算出シ以下四捨五入スヘシ管海官廳ノ承認又ハ其ノ他ノ書類ニ於テ封度又ハ英噸ニテ表示セラレタルトキハ合計數量ハ左ノ割合ヲ以テ之ヲ換算スヘシ

一封度 〇・〇〇〇四五三六噸
一英噸 一・〇一六噸

▲様式第一(甲)

海軍艦船用鋼材豫定數量届

鋼材製造工場名

右工場ノ製造ニ係ル獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材左記ノ通り海軍艦船ニ使用ノ豫定ニ有之製鐵業獎勵法施行令第五條ノ三ニ依リ此段及届出候也

鋼材製造者記名調印

年月日

農商務大臣宛

記

一、鋼材使用者及鋼材使用工場
二、鋼材ノ種類、數量、製造時期及用途……注意(鋼材ノ種類別總數量ヲ掲クヘシ) 尙詳細表ハ別紙トスルコトヲ得

▲様式第一(乙)

船舶用鋼材豫定數量届

鋼材製造工場名

別紙記載管海官廳ノ承認ヲ受ケタル獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材中右工場ノ製造ニ係ルモノ左記ノ通りニ有之製鐵業獎勵法施行令第五條ノ三ニ依リ此段及届出候也

鋼材製造者記名調印

年月日

農商務大臣宛

記

一、鋼材ノ種類、數量、製造時期及用途……注意(鋼材ノ種類別總數量ヲ掲クヘシ) 尙詳細表ハ別紙トスルコトヲ得

▲様式第二(甲)

管海官廳ノ承認ニ關スル書面

別冊

一、管海官廳ノ承認書(又ハ其ノ副本)

二、右承認書中製鐵業獎勵法施行規則第五條ノ三ノ事項
造船者(又ハ船舶修繕者)

(一) 造船(又ハ修繕)工場

(二) 船舶ノ製造番號(修繕ノ場合ニハ不用)

(三) 右船舶ノ建造(又ハ一定期間ニ於ケル船舶ノ修繕)ニ使用スヘキ物品中獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材

(四) 手續説明書

手續説明書

ノ種類及數量

- (五) 起工期日及竣工期日(修繕ノ場合ニハ不用)
- 注意 管海官廳ノ承認書(又ハ其ノ副本)ハ審査済ノ上返付スルモノトス

八二

▲様式第二乙

管海官廳ノ承認ニ關スル證明書

何年何月何日附何々第何號船舶建造(又ハ修繕)用物品承認書中製鐵業獎勵法施行規則第五條ノ三ノ事項左記ノ通りニ有之此段及證明候也

年 月 日

造船者(又ハ船舶修繕者)記名調印

鋼材製造者宛

記

- 一、造船者(又ハ船舶修繕者)
- 二、造船(又ハ修繕)工場
- 三、船舶ノ製造番號(修繕ノ場合ニハ不用)
- 四、右船舶ノ建造(又ハ一定期間ニ於ケル船舶ノ修繕)ニ使用スヘキ物品中獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ノ種類及數量：：注意(鋼材ノ種類別總數量ヲ掲クヘシ)尙詳細表ハ別紙トスルコトヲ得
- 五、起工期日及竣工期日(修繕ノ場合ニハ不用)

▲様式第三

鋼材引渡届

何年何月何日附海軍艦船用鋼材豫定數量届(又ハ船舶用鋼材豫定數量届)ヲ以テ届出(何年何月何日ヲ以テ變更届出)候鋼材中左記ノ通り引渡候條製鐵業獎勵法施行規則第五條ノ二ニ依リ此段及届出候也

年 月 日

引渡人

記名調印

引取人

記名調印

農商務大臣宛

記

- 一、引渡ノ時期
 - 二、鋼材ノ種類、數量、製造時期及用途：：注意(鋼材ノ種類別總數量ヲ掲クヘシ)尙詳細表ハ別紙トスルコトヲ得
- 備考 引渡時期ハ年月ヲ以テ示スヘシ

▲様式第四甲

獎勵金交付申請書

何年何月何日附海軍艦船用鋼材豫定數量届ヲ以テ届出(何年何月何日ヲ以テ變更届出)候鋼材中別紙ノ通り伊用セラレ候條獎勵金交付相成度海軍官憲ノ鋼材使用證明書相添へ製鐵業獎勵法施行令第五條ノ四ニ依リ此段及申請候也

年 月 日

鋼材製造者記名調印

農商務大臣宛

手續説明書

八三

▲様式第四(乙)

奨励金交付申請書

何年何月何日附船舶用鋼材豫定數量届ヲ以テ届出(何年何月何日ヲ以テ變更届出)候鋼材別紙鋼材使用説明書ノ通り使用セラレ候條奨励金交付相成度管海官廳ノ竣工承認書寫相添ヘ製鐵業奨励法施行令第五條ノ四及同施行規則第五條ノ四ニ依リ此段及申請候也

年 月 日
農商務大臣宛

鋼材製造者記名調印

▲様式第五

鋼材使用説明書

何年何月何日附船舶用鋼材豫定數量届ヲ以テ届出(何年何月何日ヲ以テ變更届出)タル鋼材左記ノ通使用セラレ候

年 月 日

鋼材製造者記名調印

- 一、鋼材製造工場
- 二、鋼材使用者及鋼材使用工場
- 三、建造シタル船舶ノ製造番號(修繕ノ場合ニハ修繕シタル船舶ノ名稱)
- 四、鋼材ノ種類、數量、使用時期〔自ラ使用シタル場合〕又ハ引渡時期〔他ニ讓渡シタル場合〕製造時期及用途…注意(鋼材ノ種類)

類別總數量ヲ掲クヘシ尙詳細表ハ別紙トスルコトヲ得

▲様式第六

鋼塊(又ハ鋼片)種類、數量、製造時期(使用時期)(引渡時期)及用途表

記號	鋼質	製造時期及番號	一個ノ數量	個數	總重量	使用重量	使用時期(引渡時期)	鍛造品			加工ノ引渡ノ際ノ重量及程度	使用重量算出方法	
								名稱	個數	鍛造重量			
計													

注意 豫定數量届ニ在リテハ使用重量ハ豫定シ得ル限度ニ於テ掲クルコトヲ得

一一 海軍艦船建造及修繕用鋼材

使用證明規則

(大正十年海軍省令第十七號
改正大正十一年海軍省令第十九號)

第一條

製鐵業獎勵法施行令第五條ノ四ニ依リ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル鋼材ニ付海軍官憲ノ鋼材使用證明書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ本則ニ依リ鋼材使用證明申請ヲ爲スヘシ

第二條

鋼材使用證明申請ハ其鋼材カ海軍工作廳ニ於ケル海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ在リテハ當該海軍工作廳長海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ノ爲ニ使用セラレタル場合ニ在リテハ其工場所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ニ之ヲ爲スヘシ
鋼材カ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場ト異リタル工場(以下下請工場ト稱ス)ニ於ケル該艦船ノ一部分ノ製作ニ使用セラレタル場合ニ在リテハ前項ノ申請ハ當該下請工場タル海軍工作廳長又ハ當該下請工場所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ニ之ヲ爲シ其證明ヲ受ケタル後當該船體ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス海軍工作廳長又ハ當該船體ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場所在地ニ駐在スル海軍造船監督官ノ證明ヲ受クヘシ(大正十一年省令第十
九號ニテ本項追加)

第三條 鋼材使用證明申請ヲ爲サムトスル者ハ製鐵業獎勵法施行令第五條ノ第三項ノ屆書ヲ農商務大臣ニ提出スルト同時ニ前條ノ申請ヲ爲スヘキ海軍工作廳長又ハ海軍造船監督官ニモ提出スヘシ

前項ノ屆書ハ鋼材製造者其ノ鋼材ヲ海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス者ニ引渡ス場合ニ在リテハ其ノ引取人ト連署スルコトヲ要ス

第一項ノ屆書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ヲ遲滯ナク海軍造船監督官ニ届出ツヘシ

第四條 前條ノ屆書ニ記載シタル鋼材ヲ海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ノ爲使用セムトスル者ニ引渡シタルトキハ其ノ都度引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造工場製造時期及引渡時期ヲ海軍造船監督官ニ届出ツヘシ

第五條 鋼材使用證明申請ハ左ノ事項ヲ具備シタル申請書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地
- 二 鋼材ヲ製造シタル工場ノ名稱及位置

三 鋼材ヲ使用シタル工場ノ名稱及位置

四 鋼材カ使用セラレタル艦船ノ名稱又ハ假稱呼及第二條第二項ノ場合ニ在リテハ該部分品ノ名稱(大正十一年省令第十九號ニテ本號改正)

五 使用鋼材ノ種類、數量及用途

六 鋼材ノ製造者カ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲ爲シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材ノ引渡時期

第六條 第四條ノ屆書及前條ノ申請書ニ記載スヘキ物品ノ種類及數量ニ付テハ其ノ名稱、鋼質、寸法、箇數、重量及用途ヲ明ニスヘシ

第七條 海軍工作廳長又ハ海軍造船監督官ハ必要アルトキハ申請書ニ具備セル事項ノ補正ヲ命スルコトヲ得

第八條 申請書ハ二通トシ申請者署名捺印スルコトヲ要ス

第九條 海軍工作廳長又ハ海軍造船監督官ハ申請書ヲ調査シ證明ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ申請書一通ノ末尾ニ證明ノ旨、番號及年月日ヲ記入シ署名捺印ノ上申請者ニ交付スヘシ

附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(大正十年十月十日公布
改正大正十一年省令第十九號
號ハ全年七月十八日公布)

承認申請及
承認更正申
請
承認申請ノ
管轄管海官
應
船舶建造用
物品承認申
請
具備事項

一一 船舶建造及修繕用物品

承認規則

(大正十年逕信省令第三一號
改正大正十年逕信省令第三五號)

第一條

大正十年勅令第二百三十九號及製鐵業獎勵法施行令ノ定ムル管海官廳ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ本令ニ依リ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲スヘシ

第二條

承認申請ハ船舶ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ爲スヘシ

第三條

船舶建造用物品承認申請ニハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地
- 二 船舶ノ製造番號、種類、資格、總噸數及速力
- 三 機關ノ種類、箇數及實馬力
- 四 專任技術者ノ氏名
- 五 船舶建造ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量
- 六 右物品中輸入税ノ免除ヲ受クヘキ物品及獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ノ種類及數量
- 七 工場ノ名稱及位置

承認規則

添附書類

承認規則

八 起工及竣工ノ期日

前項ノ承認申請ニハ船體横截面圖、船體中心線縱截面圖、各甲板平面圖、船體中心線縱截面ノ鐵鋼材構造配置圖、各甲板鐵鋼材構造配置圖、汽機圖、汽罐圖、船體部用仕様書及機關部用仕様書各二通ヲ添附スヘシ但シ汽機又ハ汽罐ヲ製造セサルトキハ汽機圖又ハ汽罐圖及其ノ仕様書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第四條

船舶修繕用物品承認申請

具備事項

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地
- 二 工場ノ名稱及位置
- 三 専任技術者ノ氏名
- 四 一定期間内ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量
- 五 右物品中輸入税ノ免除ヲ受クヘキ物品及獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ノ種類及數量

第五條

承認更正申請ヲ爲スヘキ場合

船舶建造用物品承認申請又ハ船舶修繕用物品承認申請ニ具備シタル事項又ハ添附シタル書類若ハ圖面ヲ變更セムトスルトキハ申請者ハ其ノ事由ヲ具シ承認更正申請ヲ當該管海官廳ニ爲スヘシ
承認更正申請カ營業ノ移轉其ノ他之ニ準スヘキ理由ニ依ル申請者ノ變更ヲ目的トスルトキハ承繼人之ヲ爲スヘシ

第六條

船舶建造又ハ修繕竣工承認申請

具備事項

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱
- 二 工場ノ名稱
- 三 船舶ノ製造番號又ハ名稱
- 四 竣工ノ年月日

前項ノ承認申請ニハ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用シタル物品並其ノ物品中輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品及獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ノ種類及數量ヲ記載セル明細表ヲ添附スヘシ

第七條

物品ノ種類及數量ノ記載方

添附書類

承認申請ノ具備事項又ハ添附書類ニシテ物品ノ種類及數量ヲ記載スヘキモノニ付テハ之ヲ船體部用鐵鋼材、機關部用鐵鋼材、艤裝品、艤裝品部分品、機關及機關部分品ニ分チ各品名、種類、形狀、寸法、箇數、重量及用途ヲ明ニスヘシ

前項ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ第六條第二項ニ規定セル明細書中獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ニ限リ製造者ヲモ明ニスヘシ

承認規則

承認規則

第八條 管海官廳ハ必要アルトキハ承認申請又ハ承認更正申請ニ具備セル事項若ハ添附セル書類、圖面ノ補正ヲ命シ又ハ其ノ副本若ハ添附セル以外ノ書類、圖面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條 管海官廳ハ承認申請又ハ承認更正申請ノ調査及工事施行ノ監督ニ付管轄區域外ニ於テ爲スヲ必要トスル事項アルトキハ他ノ管海官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ申請者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ申請者カ受託事項ニ關シ其ノ後爲スヘキ承認更正申請ハ受託管海官廳ヲ經由スヘシ

第十條 管海官廳ハ其ノ調査又ハ受託管海官廳ノ調査報告ニ依リ承認ヲ爲スヘキモノト認ムルトキ又ハ承認書ニ具備セル事項ノ變更ヲ必要ト認ムルトキハ申請者ニ承認書又ハ承認更正書ヲ交付スヘシ

承認書又ハ承認更正書ハ申請者ノ請求ニ因リ管海官廳ニ於テ必要アルヲ認メタルトキハ數通又ハ副本ノ交付ヲ爲スコトヲ得

第十一條 承認書ノ種類及之ニ具備スヘキ事項左ノ如シ

甲 船舶建造用物品承認書

承認申請、承認更正申請、其ノ副本又ハ添附外書類ノ提出、調査及工事監督ノ囑託

承認書、承認更正書ノ交付

承認書ノ種類及其備事項、甲 船舶建造

建造用物品承認書

船舶修繕用物品承認書

船舶建造竣工承認書

一 申請者ノ氏名又ハ名稱

二 船舶ノ製造番號

三 船舶建造ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量

四 右物品中輸入税ノ免除ヲ受クヘキ物品及獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ノ種類及數量

五 工場ノ名稱及位置

六 起工及竣工ノ期日

乙 船舶修繕用物品承認書

一 申請者ノ氏名又ハ名稱

二 工場ノ名稱及位置

三 一定期間内ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量

四 右物品中輸入税ノ免除ヲ受クヘキ物品及獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ノ種類及數量

丙 船舶建造竣工承認書

一 申請者ノ氏名又ハ名稱

二 船舶ノ製造番號

承認規則

承認規則

- 三 船舶ノ件名
- 四 工場ノ名稱
- 五 竣工ノ年月日

船舶修繕竣工承認書

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱
- 二 工場ノ名稱
- 三 船舶ノ名稱
- 四 修繕ノ箇所
- 五 竣工ノ年月日

船舶修繕届

承認書、承認更正書、書換再交付

前項ノ各承認書ニハ番號、年月日及管海官廳名ヲ明記シ其ノ官印ヲ押捺スヘシ

第十二條 船舶修繕用物品承認書ノ交付ヲ受ケタル者カ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品又ハ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ヲ使用シテ船舶ノ修繕ニ着手セムトスルトキハ工場ノ名稱、船舶ノ名稱、所有者及總噸數並修繕ノ箇所及着手日ヲ當該管海官廳ニ届出ツヘシ其ノ届出事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第十三條 承認書又ハ承認更正書カ毀損又ハ滅失シタルトキハ管海官廳ハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ書換又ハ再交付ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス (大正十年遞信百令第三五號即主トシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ニ關スル規定ハ同年七月二十日ヨリ施行)

承認規則

船舶修繕用物品承認申請書
船舶建造用物品承認申請書
船舶修繕用物品承認申請書
船舶建造用物品承認申請書
船舶修繕用物品承認申請書
船舶建造用物品承認申請書

受付番號

一三 船舶建造及修繕用物品承認規則ニ依ル

取扱方ニ關スル件

(大正十年逓信省船
第四二四號通牒)

第一

申請及届出ノ受理ニ關スルコト

一

申請書ヲ受理シタルトキハ船舶建造用物品承認申請書ニハ「大正 年甲 第 號」又船舶修繕用物品承認申請書ニハ「大正 年乙第 號」

ナル受付番號ヲ附シ又各其ノ後爲スヘキ承認更正申請書、竣工承認申請書及修繕届書ニモ同一番號ヲ附スヘシ

受託管海官廳ハ其ノ自廳ヲ經由スル承認更正申請書ニ假リニ「大正 年 丙第 號」ナル受付番號ヲ附スヘシ

船舶修繕用物品承認申請ハ各工場毎ニ之ヲ爲サシムヘシ

申請及届出ノ具備事項及添附書類ニ關スルコト

第二

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依リ認許セル物品ニ付テハ管船局ヨリ其ノ旨當該管海官廳ニ通知スヘシ

船舶建造及修繕用物品承認申請ノ具備事項中「船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲使

用スヘキ物品ノ種類」ニ付テハ大正十年勅令第二百三十九號第一條ニ掲ケ

承認規則ノ取扱方

承認規則ノ取扱方

承認申請ニ
具備スヘキ
免稅品、獎
勵金交付方
材ノ記載方

船舶建造工
事委託ノ場
合ニ於ケル
物品ノ記載

竣工承認申
請ノ使用物
品明細書ニ
前號準用ニ
起工期日ノ
竣工期日ノ
意義

船舶修繕用
物品承認申
請ヲ初メテ
爲ス場合
法令施行前

着手セル建
造船舶ニ付
承認申請ヲ
爲ス場合

船舶修繕用
物品承認前
着手ノ修繕
船舶

調査、監督
ノ囑託及其
報告

受託管海官
廳ノ調査報
告

物品類別表
ノ作成

タル各種物品全部ニ付記載セシムヘシ

三 船舶建造及修繕用物品承認申請ノ具備事項中「輸入税ノ免除ヲ受クヘキ物品及獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ノ種類及數量」ハ別ニ記載スル代リニ調査及承認上差支ナキ限リ「船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量」ヲ記載セル書類中ニ之ヲ明ニスヘキ記號ヲ附シテ表示セシムルコトヲ得

四 船舶建造用物品承認申請ノ具備事項中物品ノ種類及數量ハ其ノ建造工事ノ一部ヲ他ノ工場ニ委託シタルトキハ其ノ委託工事ニ於テ使用スヘキ物品ト其ノ他ノ物品トヲ分離シ別途ニ記載セシムヘシ

五 竣工承認申請ニ添附セル使用物品明細書ニハ前三號ヲ準用ス
六 船舶建造用物品承認申請ノ具備事項中「起工期日」ハ承認ヲ受クヘキ物品ヲ使用シ初ムヘキ日又「竣工期日」ハ承認ヲ受クヘキ物品ヲ使用シ盡スヘキ日ヲ記載セシムヘシ

七 初メテ爲ス船舶修繕用物品承認申請ニハ其ノ工場ニ於テ前一箇年間ニ船舶修繕ノ爲使用シタル物品ノ種類及數量ヲ記載セル書類ヲモ添附セシムヘシ
八 大正十年勅令第二百三十九號又ハ製鐵業獎勵法施行令施行前建造ニ着手セ

九 ル船舶ニ付船舶建造用物品承認申請ヲ爲ス場合ニ於テハ「船舶建造ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量」ニハ既ニ使用済ノモノヲモ記載セシムヘシ
初メテ船舶修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル工場ニ於テ其ノ承認前ヨリ修繕ニ着手セル船舶ニ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル鋼材ヲ使用セムトセル場合ニ於テモ修繕届ヲ提出セシムヘシ

第三

一 申請及届出ノ調査並承認書及承認更正書ノ交付ニ關スルコト
營海官廳ハ或事項ニ付調査及監督ノ囑託ヲ爲スニハ之ニ關スル必要書類ヲ送付シ且其ノ囑託後速ニ其ノ事由ヲ管船局ニ報告スヘシ尙囑託事項ノ結末ニ付テハ以下各項各號ニ依リ管船局ニ提出スル報告書中ニ其ノ要領ヲ明ニスヘシ

二 受託管海官廳ハ其ノ受託事項ニ付調査ノ都度囑託管海官廳ニ其ノ承認及管船局ニ對スル報告ノ資料トシテ必要ナル書類、圖面ヲ添ヘテ調査報告ヲ爲スヘシ

三 承認申請又ハ承認更正申請ノ具備事項又ハ添附書類中物品ノ種類及數量ニ付テハ其ノ調査及受託管海官廳ノ調査報告ニ基キ之ヲ適當ト認メタルトキハ別紙書式ニ依リ其ノ都度承認物品類別表、承認物品更正類別表又ハ使用

承認規則ノ取扱方

承認書等ノ
交付ニ付管
船局ノ指揮
ヲ要スルモ

- 物品類別表ヲ作成シ一件書類中ニ綴込ミ置クヘシ
- 尙船舶修繕用物品ニ對スル承認期間内ノ使用物品ニ付作成スル第二回以後ノ使用物品類別表ニハ別紙書式ニ依リ使用物品累計類別表ヲモ作成添綴スヘシ
- 四 管海官廳ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ調査報告書ヲ管船局ニ提出シ其ノ指揮ヲ受クヘシ
 - イ 船舶建造用物品承認書又ハ船舶修繕用物品承認書ノ交付ヲ爲サムトスルトキ
 - ロ 船舶建造用物品承認書ノ具備事項中起工、竣工ノ期日若ハ物品ノ種類、數量ノ變更又ハ船舶修繕用物品承認書ノ具備事項中期間若ハ物品ノ種類、數量ノ變更ニ付承認更正書ヲ交付セムトスルトキ但シ變更ノ輕微ナル場合ヲ除ク
 - ハ 船舶建造竣工承認書ヲ交付セムトスルトキ
- 右調査報告書カ物品ノ種類及數量ヲ具備セル承認書又ハ承認更正書ノ交付ニ關スルトキハ物品ノ種類及數量ヲ記載セル書類ノ副本及承認物品類別表又ハ承認物品更正類別表ノ寫各一通ヲ添附シ又船舶建造用物品承認

承認書等ノ
交付等ニ付
管船局ニ事
後報告ヲ爲
スヘキモノ

承認書等ノ
數通、副本
ヲ交付スル
場合

承認書等中
物品ノ記載
方
承認書等ノ

第四

- 一 承認書及承認更正書ノ具備事項中物品ノ種類及數量ニ付テハ特ニ之ヲ記載スル代リニ申請者ヨリ提出セシメタル其ノ書類ノ副本ヲ用ユルコトヲ得
 - 二 承認書及承認更正書ノ番號ハ申請書ニ付シタル受付番號ト同一ノモノヲ附
 - 三 書ノ交付ニ關スルトキハ其ノ外申請書ニ添附セル圖面及仕様書各一通モ添附スヘシ
 - 五 管海官廳ハ前號ニ依リ管船局ノ指揮ヲ受クルヲ要セサル場合ニ於テ承認更正書ヲ交付シタルトキハ更正事項ヲ又船舶修繕竣工承認書ヲ交付シタルトキハ承認事項ヲ速ニ管船局ニ報告スヘシ尙前段ノ場合ニ於テ更正事項カ物品ノ種類及數量ノ變更ニ關スルトキハ承認物品更正類別表ノ寫一通ヲ報告書ニ添附スヘシ
 - 六 承認更正申請アリタルトキハ承認更正書ヲ交付セサリシ場合ニ於テモ更正事項ヲ速ニ管船局ニ報告スヘシ
- 承認書及承認更正書作成ニ關スルコト

承認規則ノ取扱方

大正十一年十一月廿八日印刷
大正十一年十二月一日發行

農商務省鑛山局

印刷者 小川邦孝
東京市京橋區瀧山町七番地

印刷所 東京製本合資會社
東京市京橋區瀧山町七番地
電話銀座 六六六
五五五
二一〇

The right page contains a large, faint grid or table structure, likely a ledger or data table. The grid consists of approximately 10 columns and 15 rows. The text within the grid is extremely faint and illegible. There is also some faint text to the right of the grid, possibly a title or header, but it is also illegible.

1845

豐新縣各巖山風

明國派

東京買本合資會

第... 六六六 五五五 〇一二

明國派

小田津

東京市京橋區...

大正十一年十二月一日發行

大正十一年十一月廿八日印刷

14
20

14.7
238.

